

家老岳 と 真名板倉山

山域： 南会津

日時： 3月17日(土) ~ 18日(日)

天候： 晴れ

メンバー： 柘植 (CL)、鈴木憲 (SL)、澤田路、飯田、小俣、加藤、松本 (記)

● 1日目 家老岳

七ヶ岳登山口駅駐車 7:30→羽塩沢二俣 8:00→P1218 地点 10:10→家老岳山頂 11:00

→P1216 12:20→二俣 13:20→駐車地点 14:00

夜中の3時半、鈴木車、柘植車はそれぞれ千葉を出発、外環～東北道を進み上河内SAで合流し本日の目的地へ。七ヶ岳登山口駅近くに駐車し踏切、民家脇を通り林道を沢沿いに進む。雪が溶けて土の部分がみえている林道を30分歩くと分かれ道があり左へ進む。



そこから1~3m幅くらいの渡渉が3回ほどある。

(正面は目指す家老岳)

雪解け水での増水を懸念してCLからネオプレンソックスを持って来るよう指示があったので、驚く事はなかったが水深は10センチほどあり、少しためらいながらも靴で渡るが問題なし。

1時間経過し、尾根への最初の取りつきは急で全面雪だったのでここでアイゼンを装着。

お日様もどんどん高くなり暑いくらいだ。尾根に出ても割合と急な登りが続く。



1216m付近のピークまで時々休憩をはさみながら2時間弱を頑張った。

そこから頂上まではなだらかな雪庇尾根が続く。日光連山や唐松やらの樹々の間からは会津駒や北方面の山の峰の重なりがくっきりと見えて綺麗な。



左は日光連山 右は尾瀬～会津駒方面



そして下から見えていた頂上直下の樹々が白っぼいのは霧氷だと分かった時、皆間違いなく笑顔になったろう。とても美しかった

私事で恐縮だが先週の唐松岳に続き連続でこんな素敵な光景を見る事が出来て良いのだろうかと思う。皆様にポーズを強要して記念写真をとりました（ご協力ありがとうございました）名残惜しい気持ちで下山。



段々と雪が解けシャーベット状になりだすので急坂は慎重に降りてゆく。

二俣の看板や祠も復路で確認できた、正面に七ヶ岳が近くみえる。綺麗な山で今回メンバーのうち私以外の方のほとんどが登った事があるそうそうだ。

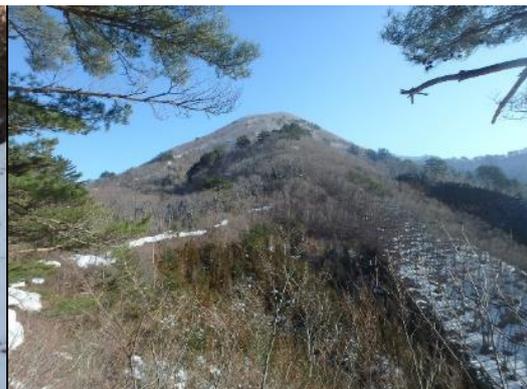


無事、駐車場に戻り、会津高原駅近くの夢の湯で温まり、道の駅番屋で早めの夕飯をがっつり食べ軽く宴会をして就寝する。

2日目 真名板倉山

駐車 7:00 → 林道穴沢線 N029 送電塔入口 7:06 → P1226 9:20 → 反射板山頂 9:50 → P1226 10:30 → 駐車地点 12:00

ネットで事前に調べてみたが記事がほとんど無い。昨日温泉で他の登山客に、明日はどちらへ？と柘植さんが尋ねられて、その名を言ったが「ああ」と反応薄かったけど！？でも結果から言うと、この日が年間ベストな日だったのでは？と思うほど雪の具合も天候も良く楽しい山歩きだった。



4時半起床、松戸原のJA近くに駐車し、送電塔入口からすぐに急な登りで尾根にでる。
昨日よりも藪っぽい。小枝をかき分けながら落ち葉と小石の混ざった歩き辛い斜面を必死に登る。
朝、ここへの道中、道路脇の温度表示がマイナス7度だったのにすでに汗ばんできた。
1100mを越えるとそれまで手強かった藪が無くなり、雪の斜面に変わってきた為アイゼンをつける。
締まっているのでワカンはいらない、といってもトレースを外れて踏み抜くと股下近くまで沈み、
脱出できず助けをもらう場面もあった。
P1226 地点までの雪底の上は面白い具合に解け進んで、場所によっては手をついたりピッケルを刺したりしないと登れないような雪壁が何か所かあり気が抜けない



たぶん荒海山

時折遠くの山に視線を向けると荒海山？が雄姿を見せてくれたり、個人的に思い出深い高杖スキー場がみえる。綺麗な景色を楽しみながら登り続けて3時間、反射板（何の為？）のある頂上に着いた。
そこは広い雪原となっていて解放感たっぷりだ。
午後から崩れる予報であったが思ったより快晴は続き、吾妻連峰方面や遠くの山々が見渡せた。



元気な二人とふつうの5人



右手に遠く吾妻連峰



下山時、落ち葉と雪のミックスに、気を付けてはいたのだが足をとられ、私を含む数名が尻餅をついて斜面を滑り落ちる事もあった。距離にしたら昨日の半分強、無事駐車地点に戻り、塩原温泉の華の湯（大人700円、65歳以上300円）でお風呂と食事をして帰路につく。

そしてなんと佐野SAで志賀高原帰りの室さんパーティーと遭遇！するというサプライズがあった



最高の天気にも恵まれて残雪の美しい山を歩いてとても楽しかったです。

ご一緒いただいた皆様ありがとうございました。

山行報告：松本かをる

【今回登った南会津の山】

